

SRID NEWSLETTER

No. 377 APRIL 2007 国際開発研究者協会 創設者大来佐武郎

〒102 -0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

URL: <http://www.srid.jp>

4 月号 SRID 学生部 2006 年度スタディーツアーを終えてーエチオピア冒険記ー

東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修了 近藤 明菜

お知らせ

1. 新入会員 加藤 靖之氏

勤務先 林野庁

2. 幹事会 5 月 18 日(金) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分 場所 JBIC

3. 会員異動 西村 恵美子氏 USAID, Bureau for Global Health

4. 懇談会 ○日時: 5 月 23 日(水) 18:30-20:30 頃

○講師: 鈴木宣行会員 (創価大学教授)

○テーマ: セネガルの「開発」における「人間研究」の重要性

○会場: 国際協力銀行 開発金融研究所内 大会議室

**SRID 学生部 2006 年度スタディーツアーを終えて
ーエチオピア冒険記ー**

東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修了 近藤 明菜

昨年度のカンボジアに引き続きまして、SRID 学生部では、今年度も 2007 年 2 月 19 日から 3 月 5 日の約 2 週間、エチオピア連邦共和国においてスタディーツアーを実施いたしました。参加者は学生部の有志 11 名です。2 年連続してニュース

レターでのご報告を私がさせていただけることになりましたことを嬉しく思います。

1. エチオピア紹介

エチオピア連邦共和国は、アフリカ東部に位置し、ラリベラの岩窟教会などの世界遺産をもつ長い歴史の国として知られています。しかし、同時に度重なる飢餓に見舞われてきたことでも有名であり、一人あたり GDP でみれば 160 ドルというように、現在は世界最貧国となっております。

気候は、標高が首都アディスアベバでも 2,400 メートルというように、大部分が高山地域であり、日中は日差しが暑くても夜になると長袖でも寒いくらい冷え込みます。主食はインジェラといい、テフというエチオピアでしか食用にはされていない穀物から作ります。このインジェラでいろんな種類のワット（シチュー）を包んで食べるのですが、酸味を含んだ不思議な味で、見かけはまるで古雑巾です。

日本との関わりは、植民地化がなされなかったために戦前にさかのぼり、コーヒーセレモニーと茶道が似ている、演歌とエチオピアの伝統的な音楽の節回しが似ている、といったように親近感を感じる人も多いようです。しかし、現在エチオピアに住んでいる日本人は百数十名とたいへん少ないと同時に、日本の投資や文化の流入もほとんど見られず、開発援助がほとんど唯一の交流のチャンネルとなっている状況です。

2. 今回スタディーツアーの特徴

実は、SRID 学生部としては、史上初のアフリカ大陸でのスタディーツアーとなりました。これは、メンバーのうち実に 9 名が 1,2 年生という状況のなか、アフリカに興味がある人が多かったことと、スタディーツアーのノウハウを伝えていく必要があったために、受け入れていただく手はずまで大体決まっていたインドネシア案を却下して踏み切ったものです。そのため、今までとは異なった様々な困難に直面することになりました。

これまでのアジア以上に、安全面や費用面では負担が大きく、現地宿泊先や移動手段の確保がなかなかできなかったため、行けるのかどうかさえ最初は定かではありませんでした。南京虫に食われる外国人が多いという情報には、皆が震え上がりました。連絡状況が悪いなかで、スケジュールの策定も遅れがちでしたが、みんなですべてを作り上げていくためには、訪問のアポイントメントを取る際の社会人とのメールの書き方から勉強しなければなりませんでしたが、皆が熱心に取り組んでくれたため、至らないところが多いながらも SRID の先輩やエチオピア関連の研究者の方などから温かい支援を受け、なんとか実施まで漕ぎ着けることができました。

3. 現地日程

紆余曲折がありながらも、エチオピア現地に全員が集合することができました。国内では、アディスアベバに主に滞在しながら、日本大使館、JICA エチオピア事務所および EWTEC・FRG・ManaBU の各プロジェクト地、世銀エチオピア事務所、Ministry of Capacity Building、AGOHELD に訪問させていただいたほか、飛行機にてラリベラに移動して四日間滞在し、フー太郎の森基金のプロジェクト地を訪問させていただきました。そのほかにも、流動的なスケジュール下で、スタツア本日程前後に数人のメンバーが訪問させていただいたところや、様々な方に会食等の形でお話を聞いて参りました。先にも述べたとおり、エチオピアでは長期滞在している日本人の絶対数が少ないためコミュニティが密であり、芋づる式に紹介していただくことができたのです。

現地で問題となったのは、インフラと食べ物でした。観光客向けの中級ホテルにおいてさえ、停電や湯が出ないといったトラブルは日常茶飯事であり、水と電気に関するインフラの弱さを思い知らされました。また、上にもご紹介したように食べられない主食にくわえ、決して食べ物は衛生的と言えず、ほとんどの人がバクテリアに感染して、点滴を打つことになりました。また、気候が厳しいため、高山病にかかり、途中別行動をとらざるをえなくなった人もいました。

それでも、訪問場所はもちろん、せつかくのエチオピアということで観光やショッピングにも積極的に繰り出していきました。そうした体験を通じて、各自感じることも多かったようで、考えたことをシェアするために今回特に時間を割いたディスカッションでは、次第に 1,2 年生の発言も増えて盛り上がるようになりました。例えば、アディスアベバ市内を歩くとまずは「China!」と声をかけられました。ここから、アフリカにおける中国の存在感と、大量の労働者を送り込んで一部粗悪なものも含むインフラ整備に乗り出していることの問題性を、肌で感じることができました。

メンバーの事前知識が少なかった分、逆に開発とは何なのか、といった根本的な問いをも、力強く生きている現地の方々と接しながら考えることができたと思います。私自身も、アジアとは全く異なる、初めて見る風景や人々に戸惑いましたが、それによって「開発」の道は一つではないのだと、頭ではなく身体で感じることができました。

4. 今後について

お世話になった方々への感謝と、私たちが学んだことを総括・還元する意義を込めて、現在報告書の作成を鋭意行っております。単なる事実報告にとどまらず、ディスカッションの成果も盛り込んでおります。今週中には完成の見込みです。また、

今年、世銀東京事務所のご協力により、エチオピアでの体験を PIC 東京にてコーヒーアワーの時間に発表させていただく予定になっております。こちらの詳細につきましても、日程が近づき次第ご案内いたしますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。